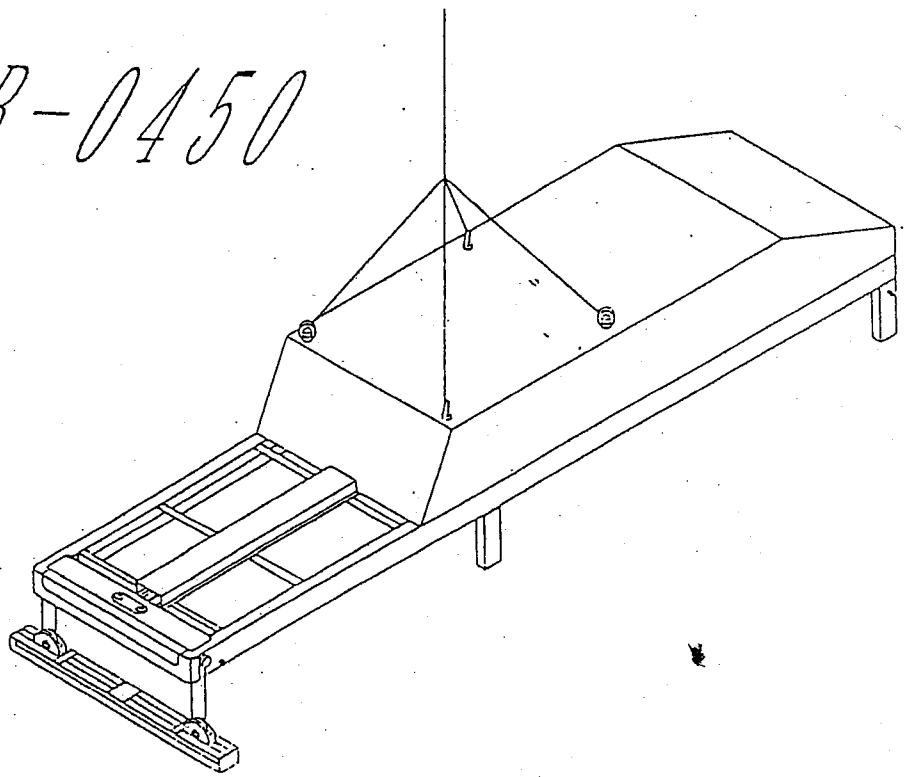
取扱説明書

リーチバランサー

RB-0450



・御利用頂く前に、必ず本取扱説明書をお読み下さい。
・本取扱説明書は、紛失しない様に大切に保管して下さい。

<作成>
平成８年　８月
適用図面　Ｎｏ．２２４

株式会社 日本技術センター

御利用頂く前に、必ずこの取扱説明書をお読み下さいまして、常に正しい操作と正しい取扱いを行い、作業能率の向上にお役立て下さいます様よろしくお願い申し上げます。

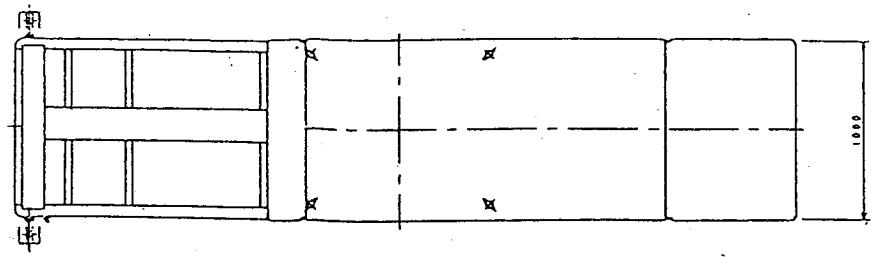
～注意～

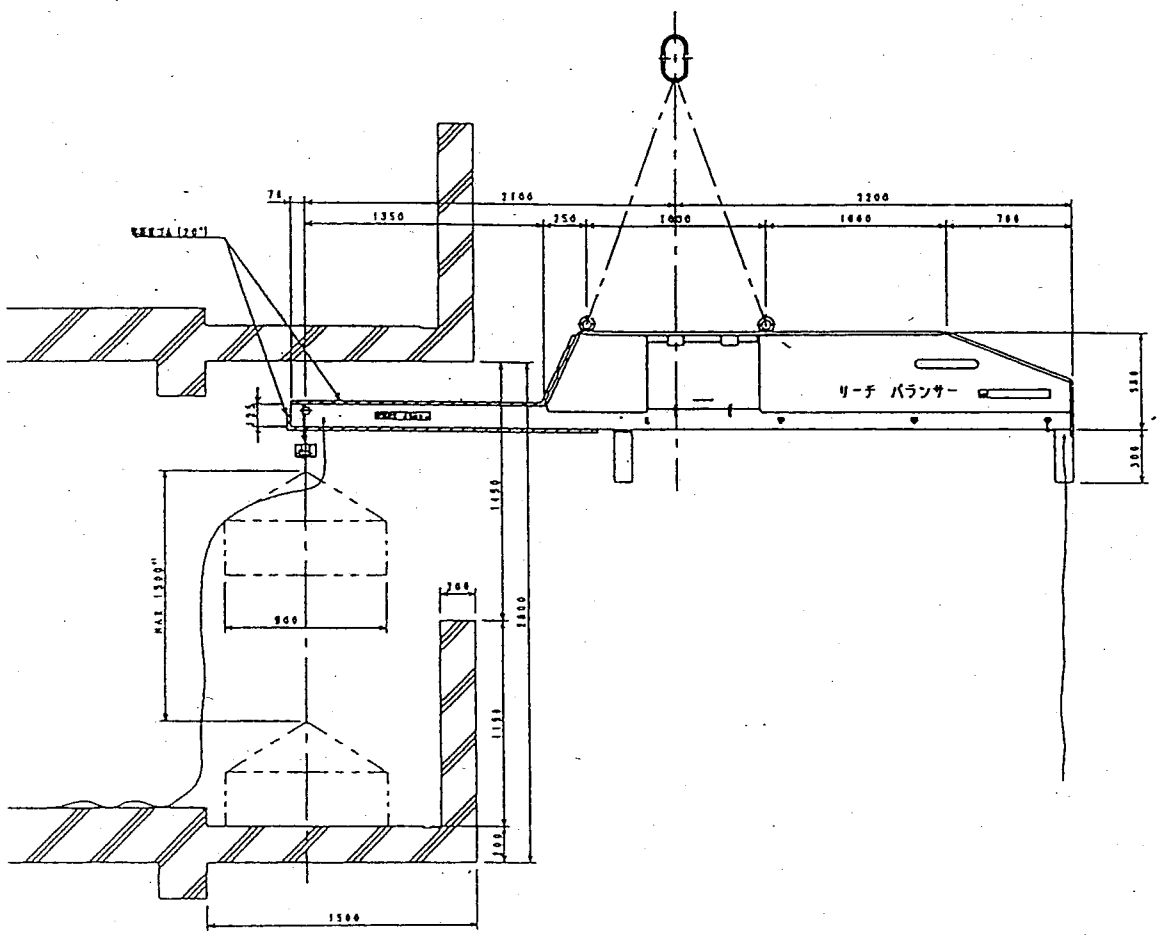
・本取扱説明書は紛失しない様、大切に保管して下さい。
・本取扱説明書に反する使用は、故障を起こすばかりでなく死亡事故等につながり、非常に危険を伴いますので、絶対にしないで下さい。

目　次

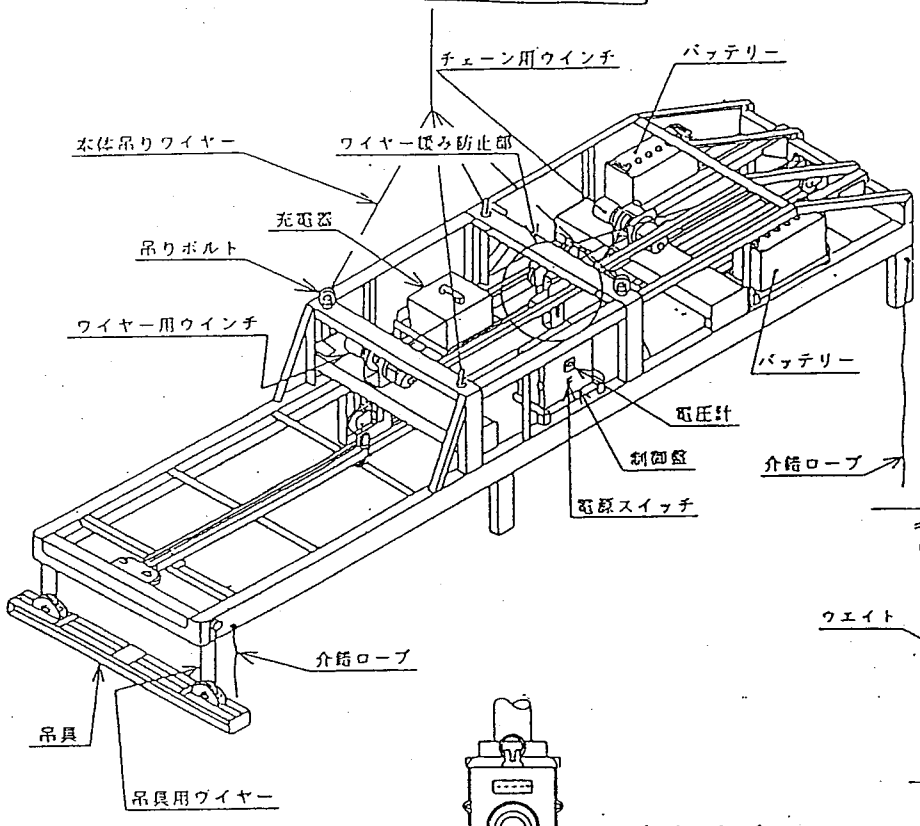
外観図 ---------- 1
各部の名称及び仕様 ---------- 2
始業点検 ---------- 3．4
使用手順 ---------- 5．6
安全に作業を行う為に ---------- 7～11
バッテリーの充電方法 ---------- 12～14

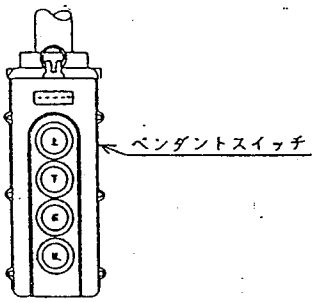
外観図

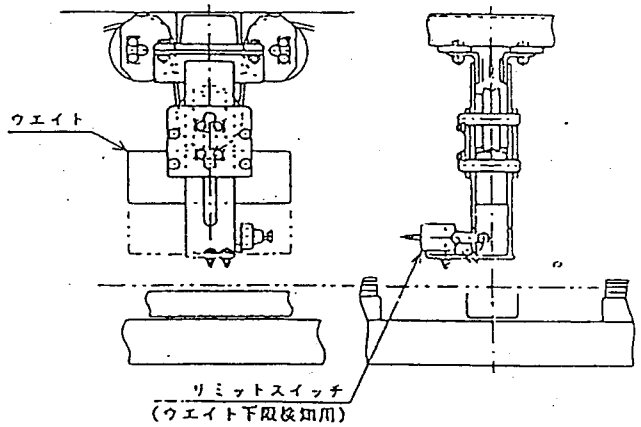




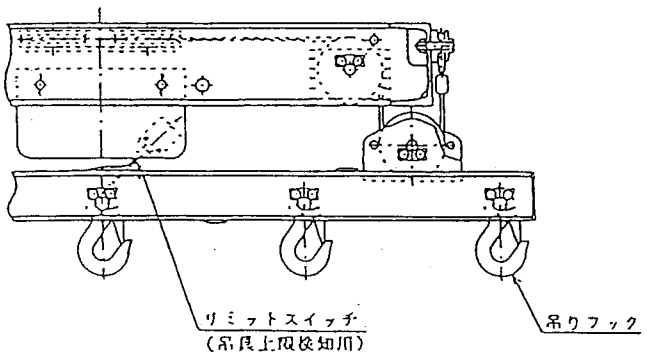
各部の名称及び仕様

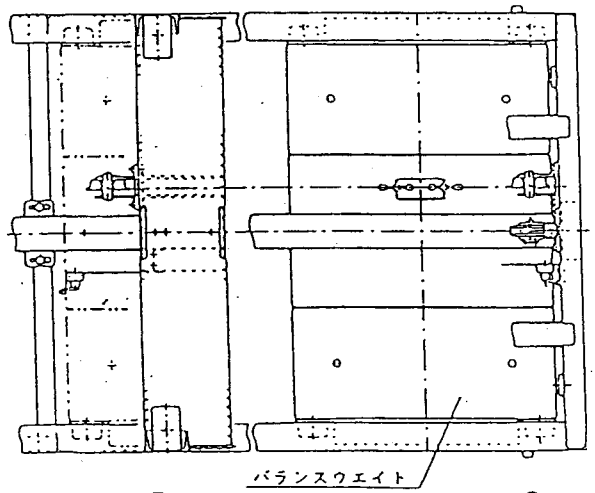


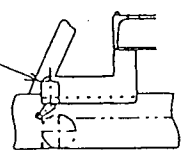


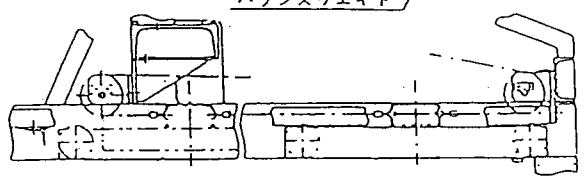


ワイヤー噛み防止部



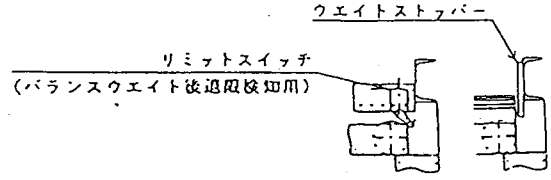




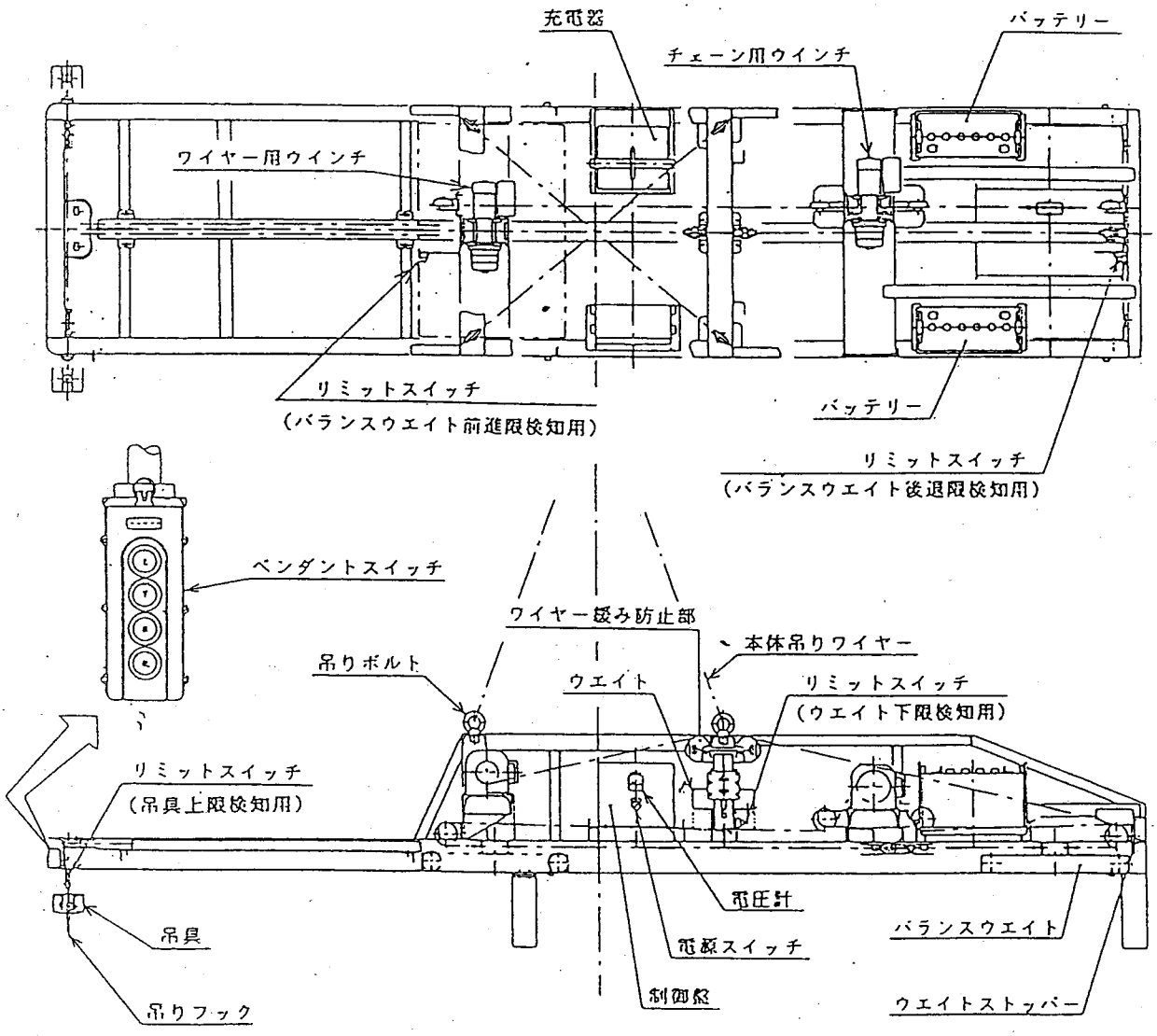


〔仕　様〕

1.	吊り荷重	定格150kg
2.	揚程	1.5m
3.	巻上げ速度	2.5m／min
4.	平衡	本体内蔵バランスウエイト移動
5.	操作方法	ペンダントスイッチ方式
6.	主電源	DC24V×2台、充電器内蔵
7.	外寸	4400ℓ×1000ᵂ×850ᴴ
8.	自重	約1100kg



始業点検


充電器
チェーン用ウインチ
バッテリー
ワイヤー用ウインチ
リミットスイッチ
（バランスウエイト前進限検知用）
バッテリー
リミットスイッチ
（バランスウエイト後退限検知用）
ペンダントスイッチ
ワイヤー緩み防止部
本体吊りワイヤー
吊りボルト
ウエイト
リミットスイッチ
（ウエイト下限検知用）
リミットスイッチ
（吊具上限検知用）
電圧計
吊具
電源スイッチ
バランスウエイト
吊りフック
制御盤
ウエイトストッパー

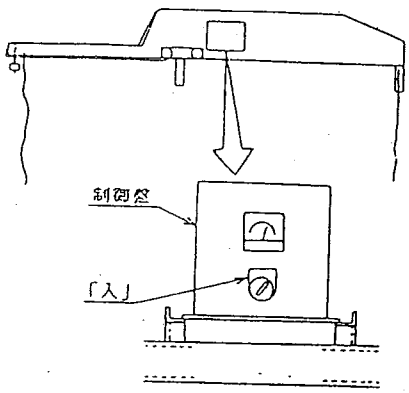
始業点検表

※コピーした物を使用して下さい。

チェック項目		チェック（該当部を○で囲む）	備考
1	ワイヤーロープ、チェーン		
	ワイヤーロープがキンクしていないか。	正常・異常	
	ワイヤーロープの素線が切れている箇所及び特定の部分で直径が減少している箇所が無いか。	正常・異常	
	ローラチェーンの破損等の異常はないか。	正常・異常	
	ワイヤーロープ及びローラチェーンにサビはないか。	無し・有り	適度な給脂を行って下さい。
2	本体吊りボルト		
	本体を吊り揚げる時、吊りボルトの破損等の異常はないか。	無し・有り	本体上部４ケ所
3	先端部の吊りフック		
	先端部の荷取り用フックの破損等の異常はないか。又、ワイヤーのよれや外れ等は無いか。	正常・異常	
4	ウインチ		
	ウインチの巻上げ・巻下げ動作ができるか。	正常・異常	
	巻上げ上限で自動停止するか。	正常・異常	
	巻上げ時ワイヤーが緩んだ場合、自動停止するか。	正常・異常	
5	バランスウエイト		
	ウエイトの移動が出来るか。	正常・異常	
	前進限で自動停止するか。	正常・異常	
	後退限で自動停止するか。	正常・異常	
6	その他		
	各装置動作時に異常音がないか。	無し・有り	
	各部のボルトの緩み及び、外れはないか。	無し・有り	
	配線の断線はないか。	無し・有り	
	電源「入」時、電圧計の指針は２５Ｖ以上になっているか。	正常・異常	
	電装部品のスイッチ類の破損等はないか。	無し・有り	ペンダントスイッチ制御盤、充電器
	バッテリー液は充分入っているか。	正常・異常	
	バッテリー液がもれていないか。	正常・異常	

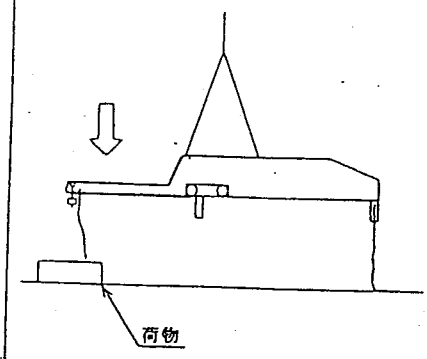
使用手順

〔1〕



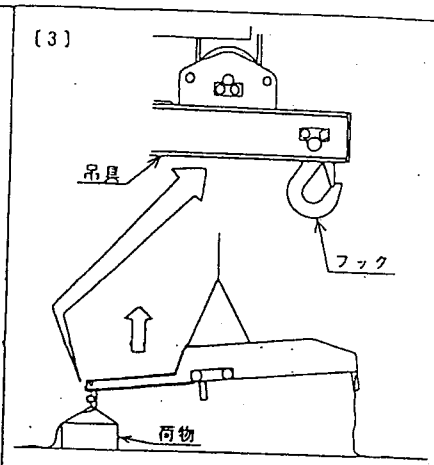
本体中央のカバーを開け、制御盤の電源を「入」にします。

〔2〕



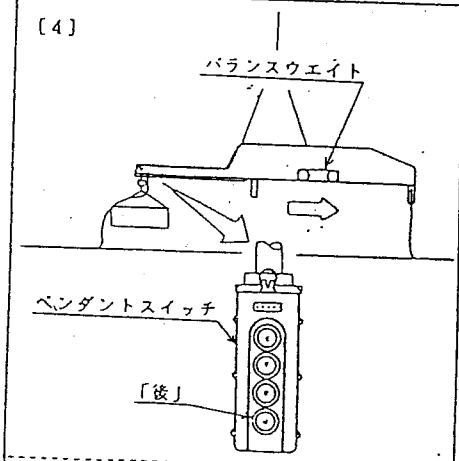
本体を荷物の上まで移動します。

〔3〕



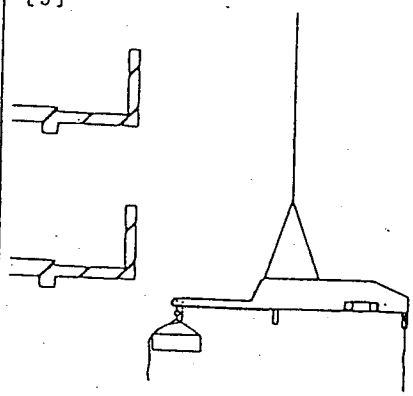
荷物を本体吊具のフックに引っ掛けてから、少し持ち上げます。

〔4〕

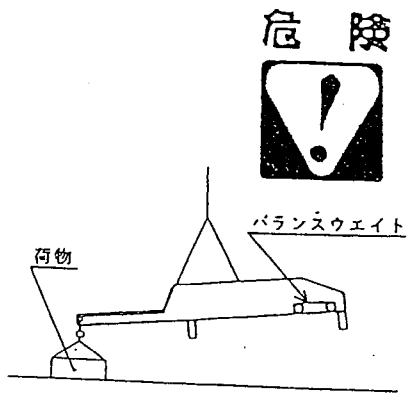


ペンダントスイッチの「後」ボタンで、全体が水平になる様に本体内部のバランスウエイトを移動します。

〔5〕

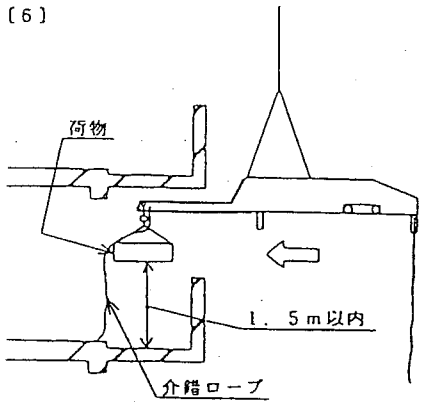


本体を目的の高さまで昇降させます。



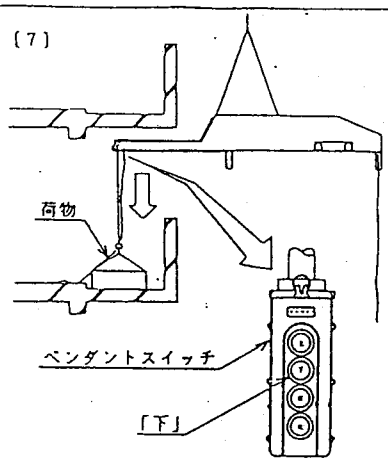
バランスウエイトが一番後まで行っても水平にならない時は吊り荷の荷重オーバーです。絶対に吊らないで下さい。転下の恐れがあります。

〔6〕



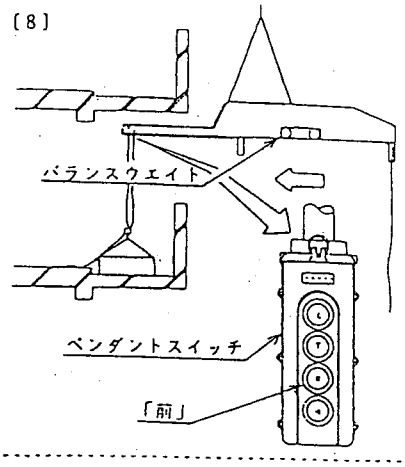
本体を目的の高さまで昇降させたら、介錯ロープで中へ引き込みます。

〔7〕



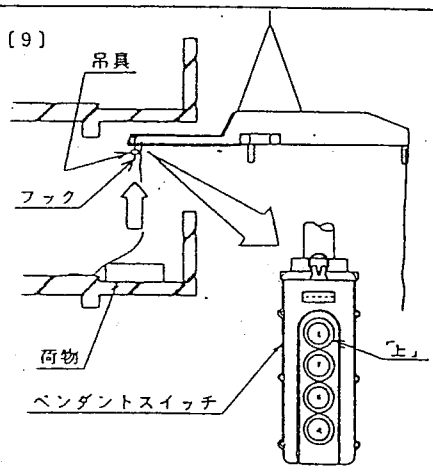
ペンダントスイッチの「下」ボタンで、荷物を床へ降ろします。

〔8〕



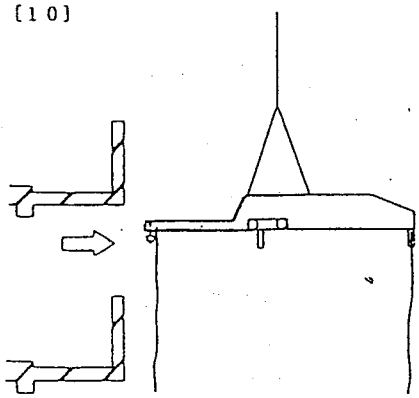
ペンダントスイッチの「前」ボタンで本体のバランスウエイトを一番前まで移動します。

〔9〕



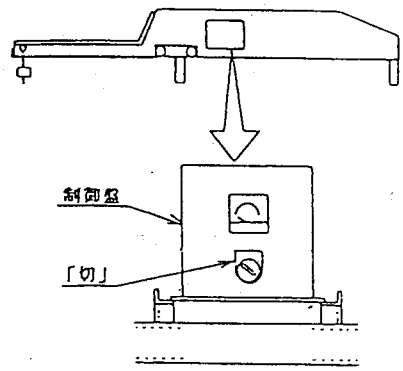
荷物を本体吊具より外して、ペンダントスイッチの「上」ボタンで吊具を上げます。

〔10〕



本体を外側へ移動します。

〔11〕

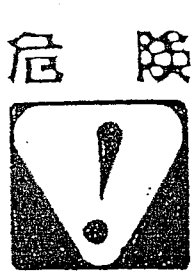


作業終了時は、バランスウエイトを必ず一番前まで移動させてから本体中央のカバーを開け、制御盤の電源を「切」します。

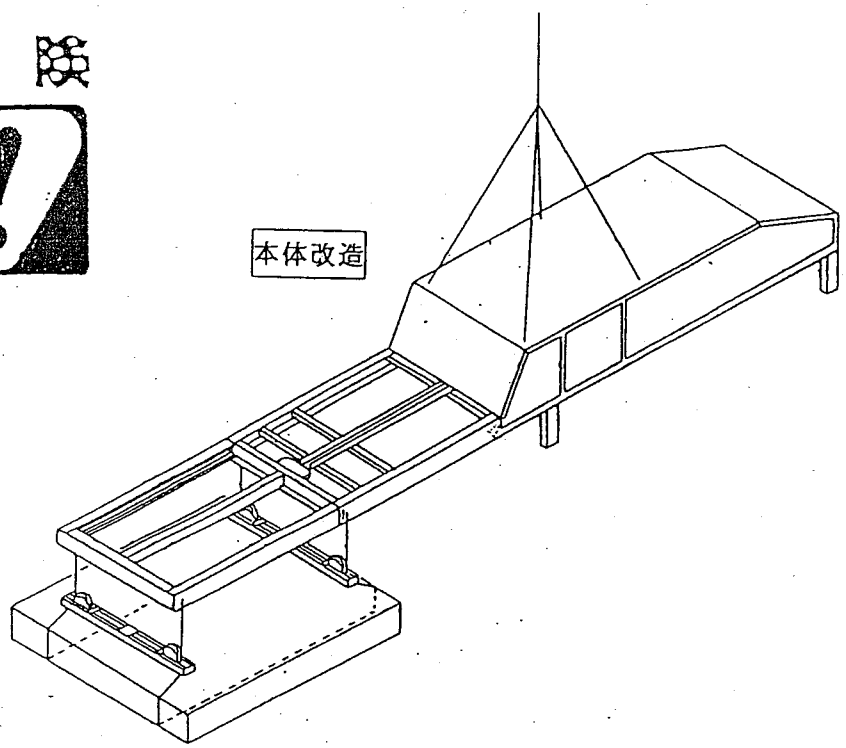
安全に作業を行う為に

・お客様による改造及び、無理な使用方法は絶対にしないで下さい。

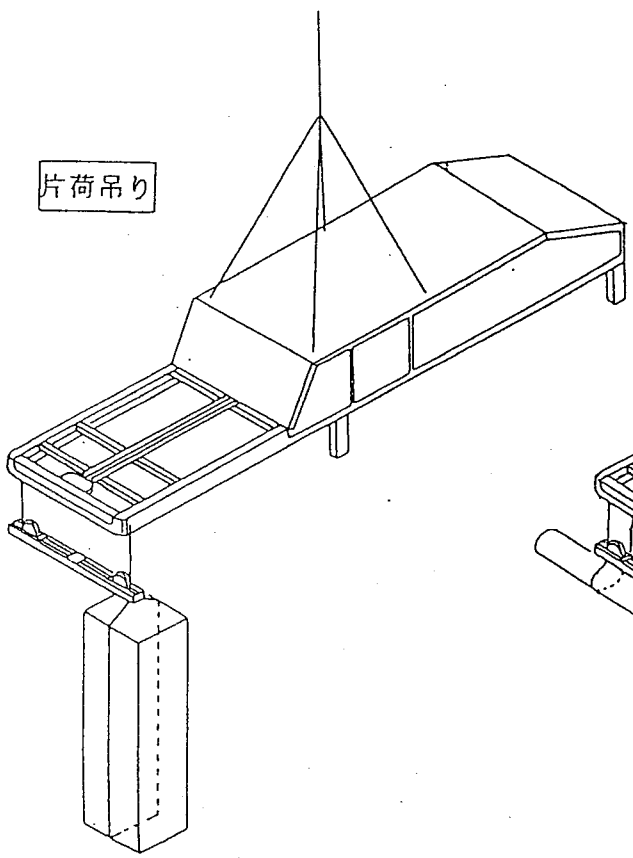
危険



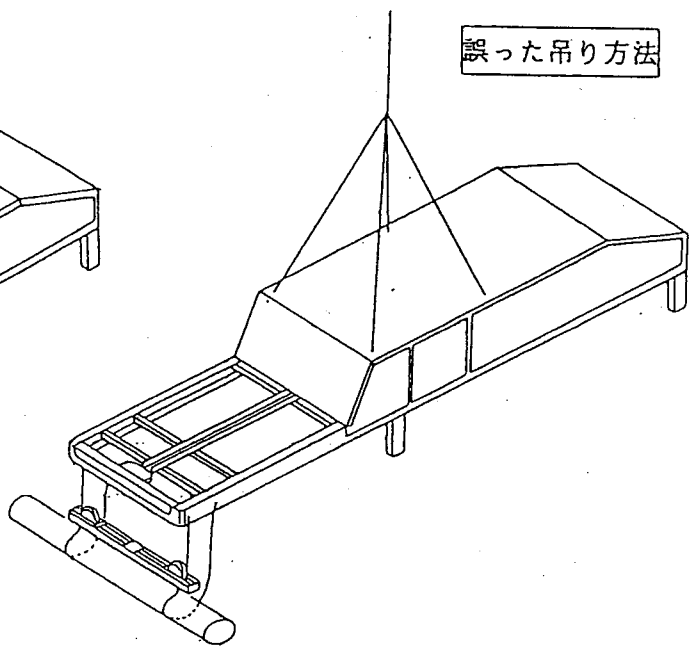
本体改造



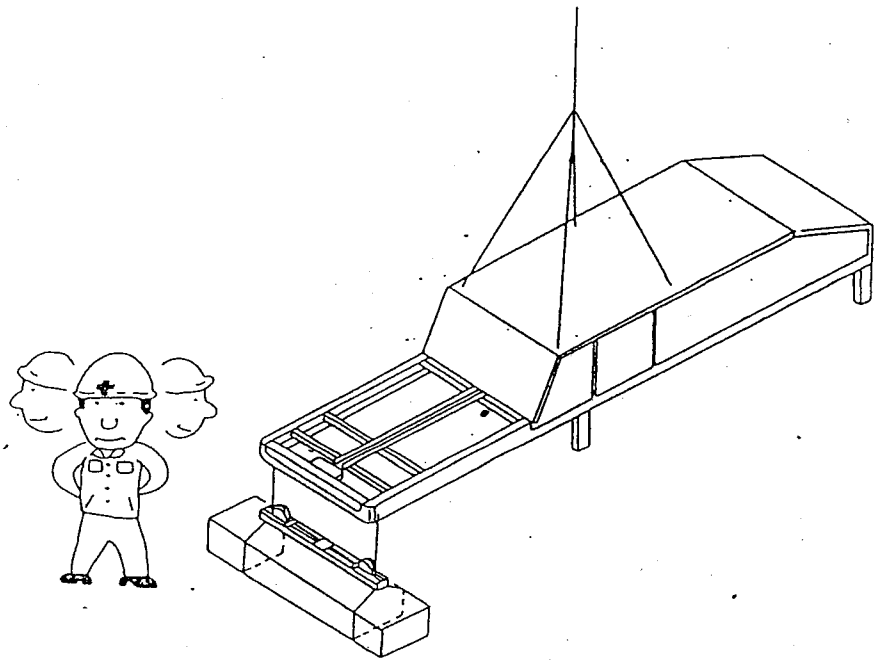
片荷吊り



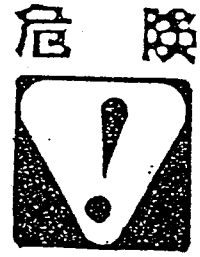
誤った吊り方法

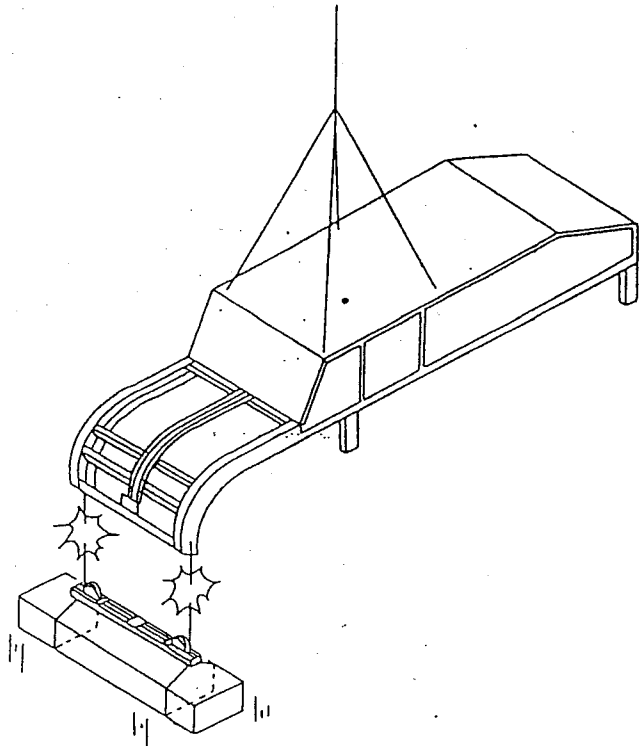


・周囲の状況を良く確認した上で慎重に操作を行って下さい。
　特に周囲の作業員には、充分注意して下さい。
・吊荷の下には絶対に行かないで下さい。

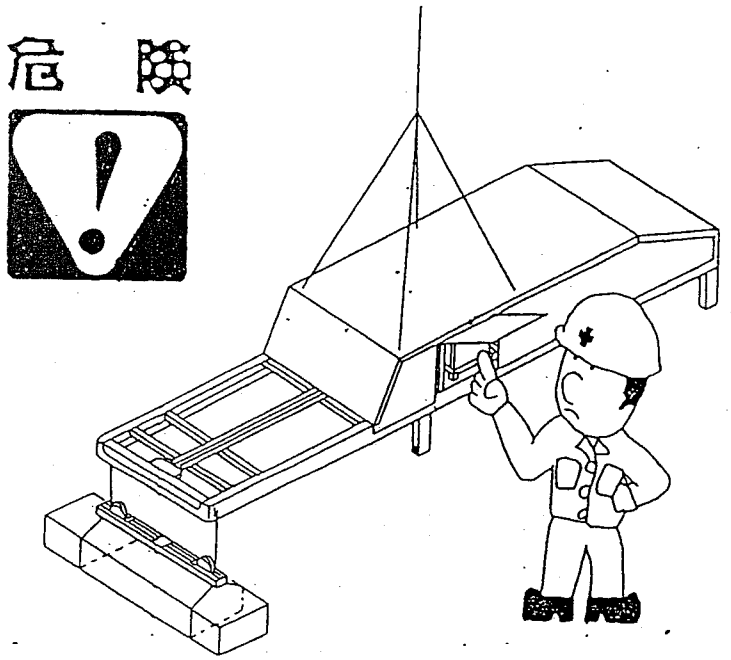


・吊り荷重（４５０kg）を越える物は絶対に吊らないで下さい。
　本体の故障及び事故の原因となります。

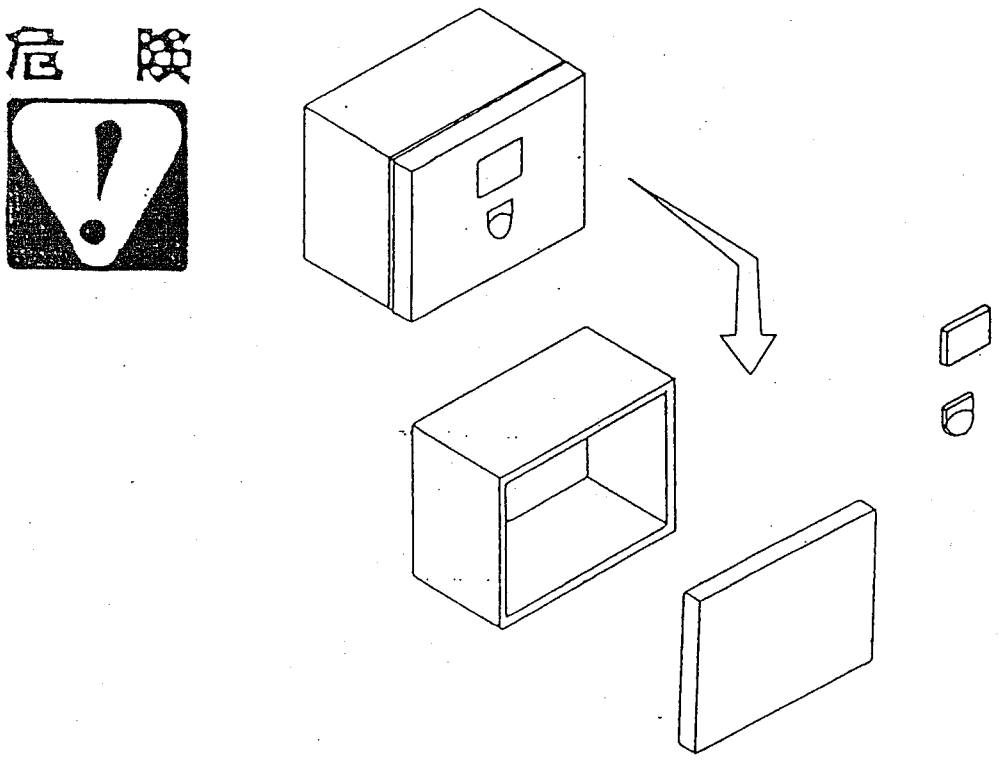




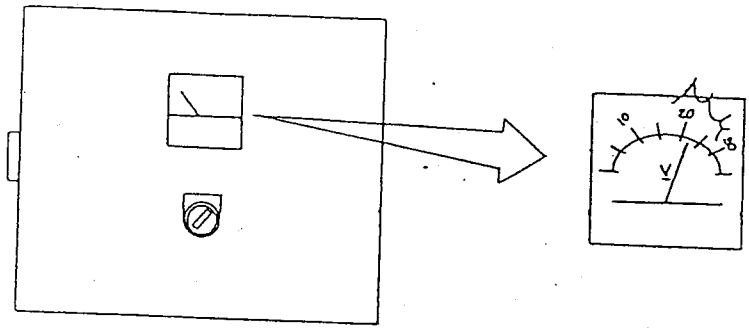
・物を吊った状態での電源の「入」・「切」は絶対にしないで下さい。
危険です。



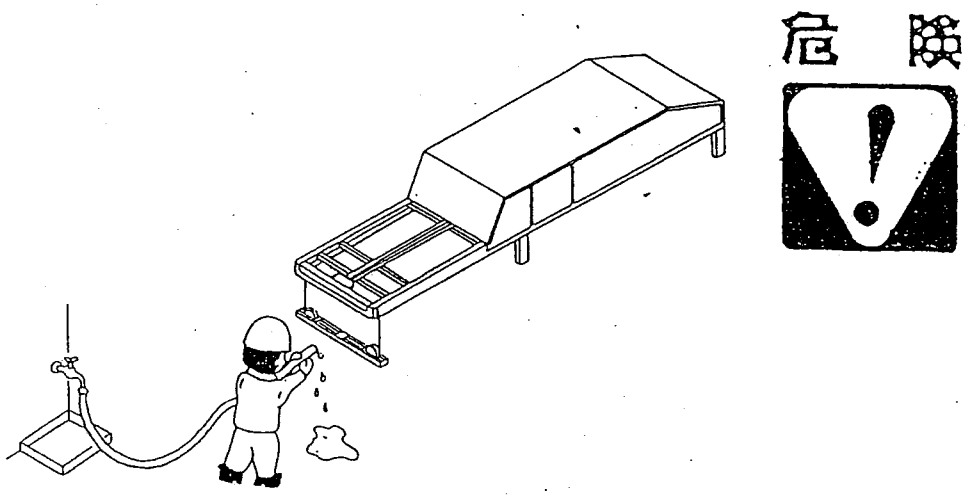
・充電器等、電装部品の分解は絶対にしないで下さい。
故障の原因となります。



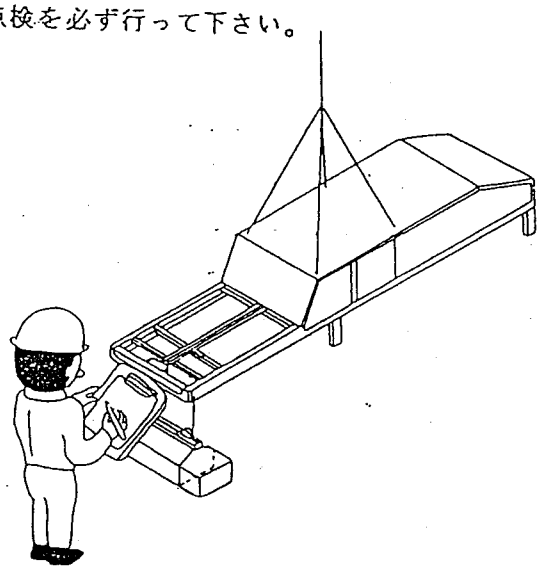
・電圧計の指針が２５Ｖ以下になった時は、直ちにバッテリーの充電を行って下さい。



・電装部品保護の為、本体の洗浄は絶対にしないで下さい。
汚れは乾いた布又は、絞った濡れ雑巾等で拭き取って下さい。



・点検表に基づいた定期点検を必ず行って下さい。

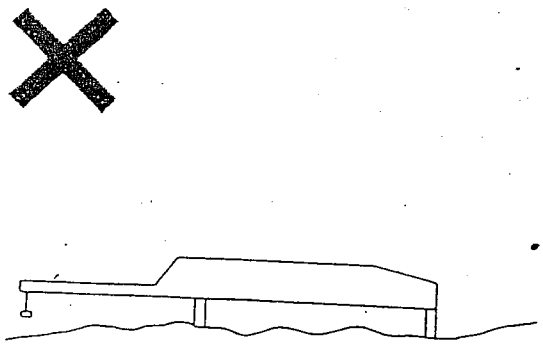


［保管場所］

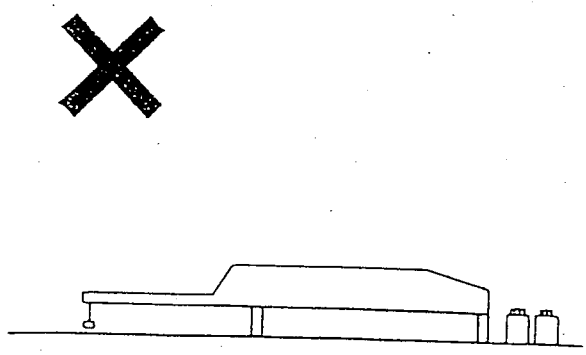
～注意～

下記の様な場所での保管は、絶対にしないで下さい。

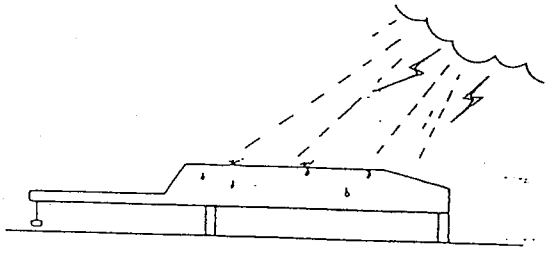
1．地面に凹凸のある場所



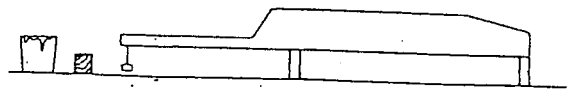
2．腐食性の強い薬物の近く



3．雨や雪のかかる場所



4．ゴミや粉塵のある場所

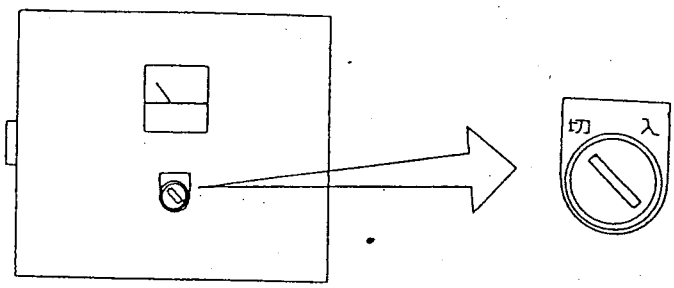


バッテリーの充電方法

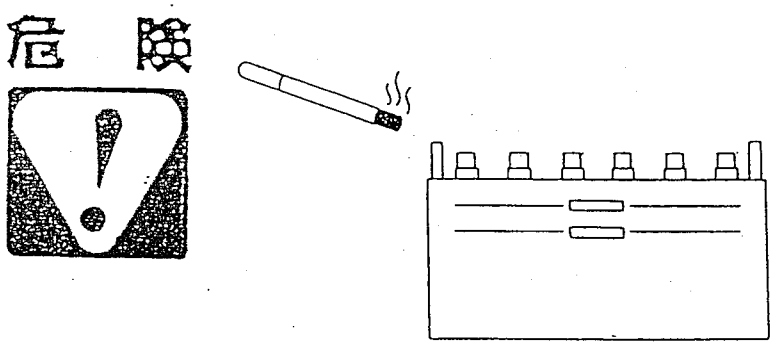
電圧計の指針が２５Ｖ以下になった時は、直ちにバッテリーの充電を行って下さい。
※尚、充電器の詳細については、別冊の取扱説明書を御覧下さい。

～充電時の注意事項～

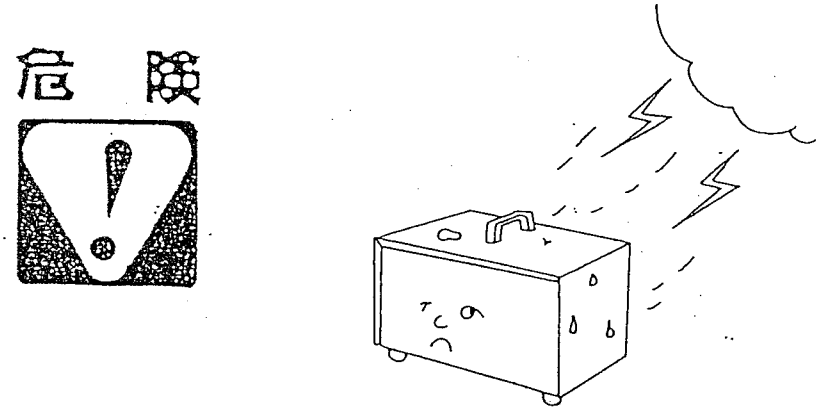
１．本体の電源が「切」になっているか確認して下さい。



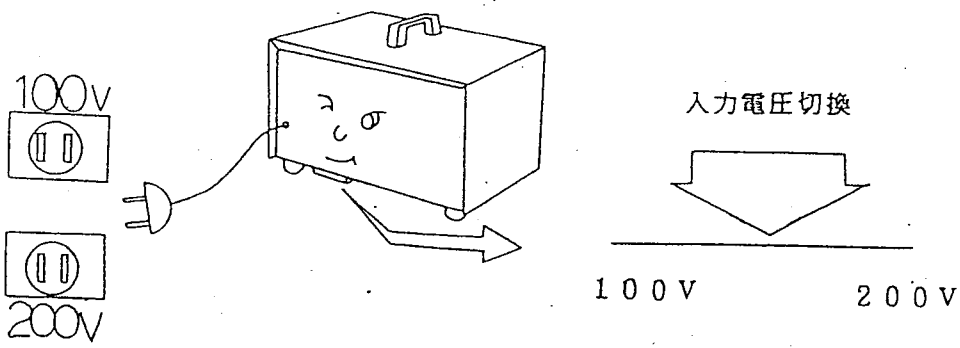
２．バッテリーの使用中又は充電中は、絶対に可燃物を近づけないで下さい。
火災の原因となります。



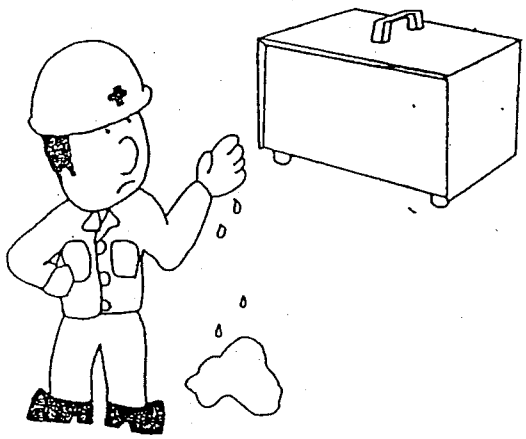
３．雨や雪等のかかる場所では、絶対にしないで下さい。
漏電等の原因となります。

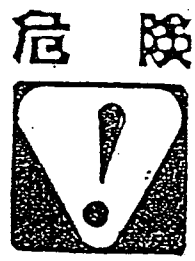


4．充電器の電源は、本器下側の入力電圧切換で１００Ｖ、２００Ｖ
に切換えて、コンセントに差し込んで下さい。



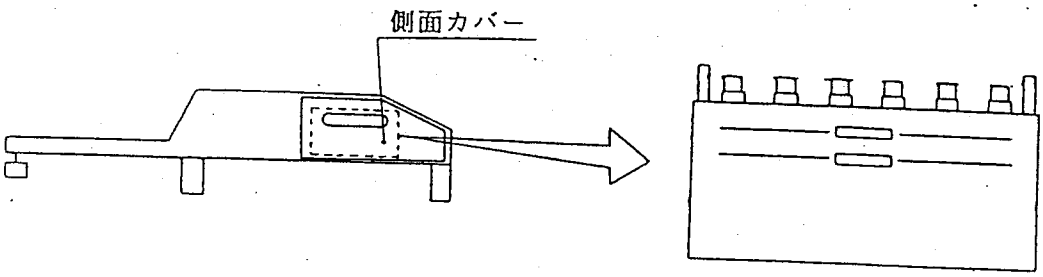
5：充電する時は、絶対に濡れた手で触らないで下さい。
感電等の事故につながり危険です。





[バッテリーの取扱い]

1．バッテリー液は次第に減少しますのでその度、補給して下さい。
減り具合は、本体の側面カバーの穴より見る事ができます。



"LOWER　LEVEL" のライン上又は、それ付近に液面があれば
側面カバーを外してからバッテリーの液口センキャップを外して、
"UPPER　LEVEL" のライン付近までバッテリー液を補給して下さい。

～注意～

本体の電源は「切」になっているか確認してから行って下さい。